令和３年

第４回 教 育 委 員 会 会 議

議案（第７号）

秋田県教育委員会

議案第７号

秋田県指定文化財の指定等について

秋田県文化財保護条例（昭和50年秋田県条例第41号）第４条第１項の規定により、次の有形文化財を秋田県指定有形文化財（書跡・典籍）に指定する。

名称	員数	所在地	所有者
五明文庫（吉川五明稿本類並びに関係資料）	232点 附44点	秋田市千秋明徳町４番４号 秋田市立中央図書館明徳館	個人

秋田県文化財保護条例（昭和50年秋田県条例第41号）第４条第１項の規定により、次の有形文化財を秋田県指定有形文化財（考古資料）に指定する。

名称	員数	所在地	所有者
秋田城跡出土非鉄製小札甲	一括	秋田市寺内焼山９番６号 秋田市立秋田城跡歴史資料館	秋田市

秋田県文化財保護条例（昭和50年秋田県条例第41号）第34条第１項の規定により、次の記念物を秋田県指定天然記念物に指定する。

名称	員数	所在地	所有者
一ノ目潟の年縞堆積物標本	49点	男鹿市角間崎字家ノ下452番地 男鹿市ジオパーク学習センター 男鹿市脇本樽沢字刈沢156番地 男鹿市歴史資料収蔵庫	男鹿市

秋田県文化財保護条例（昭和50年秋田県条例第41号）第４条第１項の規定により、次の表の左欄に掲げる秋田県指定有形文化財に同表中欄に掲げる文化財を追加して指定し、記載事項を同表右欄のように改める。

左欄					中欄	右欄
名　称	指定年月日	員数	所　在　地	所有者	員数	員数
鈴木空如筆法隆寺金堂壁画模写及び下絵	平成24年３月23日	77点	大仙市太田町太田字新田田尻３番４号 大仙市立太田文化プラザ	大仙市	56点	133点

令和３年３月４日提出

秋田県教育委員会教育長　　安　田　浩　幸

第94回秋田県文化財保護審議会において、「五明文庫（吉川五明稿本類並びに関係資料）」、「秋田城跡出土非鉄製小札甲」、「一ノ目潟の年縞堆積物標本」の計３件を秋田県指定文化財に指定すること、また、「鈴木空如筆法隆寺金堂壁画模写及び下絵」について追加指定することが適当であることの答申があった。

この指定については、秋田県教育委員会の議決を得る必要がある。

これがこの議案を提出する理由である。

議案第７号参考資料

五明文庫（吉川五明稿本類並びに関係資料）

１	種　　別	有形文化財（書跡・典籍）
２	名称及び員数	五明文庫（吉川五明稿本類並びに関係資料）　232点附44点
３	年　　代	江戸時代中期～後期
４	材質・寸法等	別紙のとおり
５	所 在 地	秋田市千秋明徳町４番４号　秋田市立中央図書館明徳館
６	所 有 者	個人
７	管理責任者	秋田市立中央図書館明徳館長
８	説　　明	

吉川五明(幼名伊五郎、のち正九郎、宗七郎兄之、祐之、隠居後に了阿）は、享保16年(1731)に那波三郎右衛門祐祥の五男として久保田城下茶町菊之丁に生まれた。18歳で同じ茶町菊之丁の吉川惣右衛門吉品の養子となり、22歳のとき吉品の長女律と結婚して分家した。養父死後、義弟を後見して家業の隆盛を支えた。安永７年(1778)に隠居、享和３年(1803)73歳で没した。

少年期から俳諧に親しみ、はじめ京の正木風状や大坂の松木淡々らの影響を受けて滑稽味や言葉遊びをもっぱらにした句を多く作った。やがて談林風の平俗な句作に疑問を抱いて芭蕉を独学し、宝暦12年(1762)俳号を五明と改めたころを境に、自然観照を基本とし叙情や感傷をたたえた蕉風へと大きく転換する。明和５年(1768)『四季の友』を撰して蕉風復古を宣言し、蕉風復帰を牽引した与謝蕪村、加藤暁台ら諸国俳人と幅広く交流し、明和の中興俳諧運動の奥羽における中心的役割を担った。隠居後は、天明２年(1782)川尻に小夜庵を結び、六百の門弟の指導をし、全国の俳友と交流を結びながら句作を深めた。

吉川家に代々伝わる自筆俳書等の資料群が五明文庫として秋田市立中央図書館明徳館に寄託されている。初期の句を撰した『たもとくそ』（宝暦11年(1761)）、『四季の友』に始まり蕉風を追究する年々の撰集、『小夜話』（安永９年(1780)頃）等の俳論、さらに『猿蓑』（向井去来・野沢凡兆編、元禄４年(1691)刊）など芭蕉研究のために収集した俳書などから五明の俳諧の深化の歩みを見ることができる。また、「五明住所録」（寛政７年(1795)頃まで）などの関係資料からは諸国俳人や門弟との幅広い交流も窺える。

五明文庫は、芸術性の高みを求めた五明の俳諧を今に伝えるだけでなく、明和の中興俳諧運動の軌跡を物語るものとして江戸時代中期から後期の日本の文芸史をたどる上で貴重である。

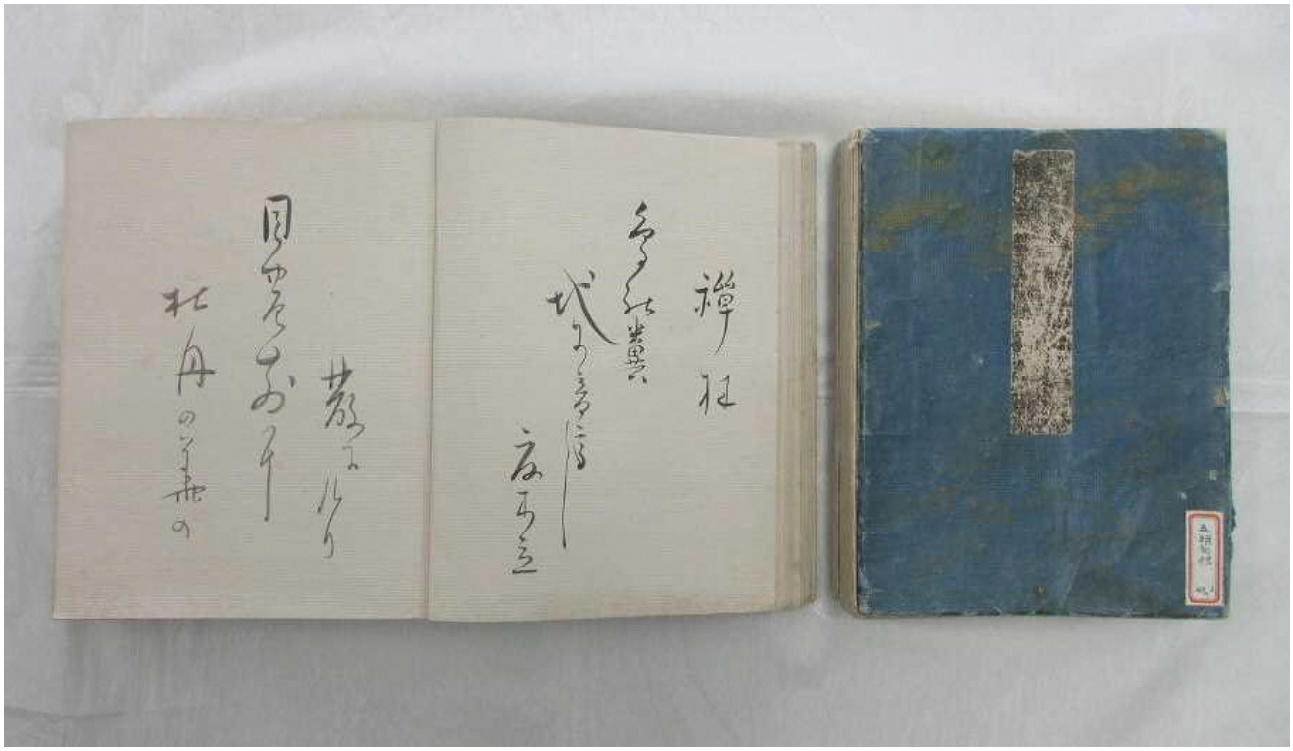
参考

秋田市指定有形文化財（歴史資料）「五明文庫」　昭和54年(1979)10月９日　追加指定昭和60年(1985)３月１日

参考文献

藤原弘 編 『秋田俳書体系　吉川五明集上』　秋田俳文学の会　昭和49年(1974)11月30日
藤原弘 編 『秋田俳書体系　吉川五明集下』　秋田俳文学の会　昭和51年(1976)11月30日
藤原弘　『秋田俳諧考説』　私家版　昭和62年(1987)９月９日

上段：『四季の友　春』、『しきの友　夏』、『四季の友　冬』（いずれも五明稿本）
下段：『小夜話』（五明著、野松写）



左：『句藻　上』、右：『句藻　下』（いずれも五明稿本）

秋田城跡出土非鉄製小札甲

１　種　　別　　有形文化財（考古資料）
２　名称及び員数　　秋田城跡出土非鉄製小札甲　一括
３　年　　代　　９世紀前半
４　所　在　地　　秋田市寺内焼山９番６号　秋田市立秋田城跡歴史資料館
５　所　有　者　　秋田市
６　出　土　地　　秋田市寺内大畑　史跡秋田城跡
７　説　　明

秋田城跡は、天平５年(733)に秋田市寺内に造営された古代の役所跡で、昭和14年(1939)に国史跡に指定された。秋田城跡出土非鉄製小札甲は、平成10年(1998)に行われた第72次発掘調査で出土した。

小札甲は短冊状の小札を縦横につないでつくられた甲である。本小札甲は、政庁南東側の竪穴状工房跡内から、東西約2.5m、南北約2.0mの範囲を中心に、板状に連結された小札が折り重る状態で出土した。甲は土ごと取り上げて８つのブロックに分割して保存処理され、展示されている。

小札は740枚以上確認されており、甲胴部の前後を構成したと考えられるものが多数を占めるほか、脇の両側に使われたと考えられるものもある。『延喜式』兵庫寮の甲製作工程の規定には、「甲一領、札八百枚」と記載されていることから、出土した小札は甲１領分に相当すると考えられる。小札一枚一枚には漆が塗られ、さらに小札を連結した後にも漆で塗り固め仕上げられている。出土した漆膜の色調は、黒色と暗赤褐色の２種が認められる。大部分の小札は外側の漆膜だけが残存するのみであるが、わずかに残された内側の材質を分析した結果、芯材は鉄等の金属ではなく、有機質であることが確認されている。

甲の素材に関しては、『続日本紀』宝亀11年(780)８月18日条に、鉄製の甲冑にかえて、革製の甲冑を作るよう指示した勅令がある。同じく、延暦９年(790)閏３月４日条には、蝦夷征討のために諸国へ革製の甲冑２千領を製作するよう命じた勅令があり、奈良時代の末には鉄製の甲よりも軽く、製作や管理がしやすい革製の甲を用いるようになっていたことを知ることができる。本小札甲は古代の甲に関して文献史料を裏付ける物証となる可能性もある。

平安時代前期の非鉄製素材を用いた小札甲の出土例は全国的にも確認されておらず、本資料が唯一の実物資料である。

参考

秋田市指定有形文化財（考古資料）「秋田城跡出土非鉄製小札甲」　平成26年(2014)３月27日

参考文献

秋田市教育委員会　秋田城跡調査事務所『秋田城跡　平成十年度秋田城跡調査概報』　平成11年(1999)３月

秋田市「第一編古代の遺跡　第七章秋田城跡の発掘調査」『秋田市史　第七巻　古代史料編』270～271頁　379～381頁　平成13年(2001)３月

三浦一郎「平安前期の甲冑」『日本甲冑図鑑』　新紀元社　43頁　平成22年(2010)８月４日

小札甲出土状況

展示されている古代の甲（推定復元）

一ノ目潟の年縞堆積物標本

1	種別	天然記念物
2	名称及び員数	一ノ目潟の年縞堆積物標本　49 点
3	寸法	別紙のとおり
4	所在地	男鹿市角間崎字家ノ下 452 番地　男鹿市ジオパーク学習センター 男鹿市脇本樽沢字刈沢 156 番地　男鹿市歴史資料収蔵庫
5	所有者	男鹿市
6	説明	

一ノ目潟の年縞堆積物標本は、平成 18 年(2006)のボーリング調査で採取された約 37 m の湖底堆積物から、薄い板状に剥ぎ取られた約３万年分の地層サンプル 45 点と、平成 25 年(2013)の調査で採取された半円柱状の地層サンプル４点からなる。標本は概ね 80cm ごとに区切られて展示、保管されている。

年縞とは、季節ごとに異なる物質が堆積することによって形成された、樹木の年輪のような縞模様のことである。明暗のある地層一対が１年分の堆積物となり、含まれる物質を分析することで過去の気候変動や火山の噴火活動、地震活動の履歴などを明らかにすることができる。年縞が形成されるためには、大きな流入河川がなく湖底が洗い流されないこと、十分な水深があって風や波により湖底が撹拌されないこと、さらに湖底部の水に含まれる酸素量が少なく生物が繁殖しにくいことなどの条件が整っている必要がある。マール湖である一ノ目潟は年縞形成の条件を満たしており、湖底には特に厚く縞模様の良好な年縞堆積物がある。

これまでの一ノ目潟の年縞堆積物の調査により、約 3,500 年前にスギやブナなどの森林が発達したことや、３世紀半ば～７世紀末までは雪の多い冷涼多湿な時代であったこと、菅江真澄が水位の低下した一ノ目潟を描いた文化７年(1810)は、実際に降水量が少なかったことなど、湖周辺の環境変化が明らかになっている。また、中にはタービダイト層と呼ばれる、地震によって湖壁が崩壊し、湖に流れ込んだ地層も見られる。これは日本海東縁部の秋田沖や内陸部の浅い場所でマグニチュード６以上の地震が起きた時に形成されたことがわかっており、それらは元禄７年(1694)の能代地震、文化７年(1810)の男鹿地震、昭和 39 年(1964)の男鹿北西沖地震、昭和 58 年(1983)の日本海中部地震に対応する。

一ノ目潟の年縞堆積物標本は、湖底にある学術的価値の高い年縞堆積物を可視化するものであり、過去の気候変動や自然現象などの環境情報を見て取ることができる貴重な資料である。

参考文献

環境省総合環境政策局、秋田県　『平成 18 年度国土施策創発調査「環境資源のワイズユースによる地域コミュニティの再生と持続可能な地域づくりに関する調査研究」報告書』　平成 19 年(2007) 3 月

原田尚美、長島佳菜、山田和芳　「一ノ目潟の湖底から気候変動を追う」　独立行政法人海洋研究開発機構『Blue Earth』第 24 巻第３号（通算 119 号）　24-27 頁　平成 24 年(2012)10 月

歴史資料収蔵庫保管の年縞堆積物標本(IMG06、ビニールから取り出したもの)

ジオパーク学習センター保管の年縞堆積物標本(IMG13、専用ケースに密封されている)

一ノ目潟の年縞堆積物標本 一覧表

番号	サンプルNo.	採取深度(m)	採取長(m)	採取年	形状・状態	保管場所	備考
1	No.1	0.00 ～ 0.80	0.80	平成18年	板状・剥ぎ取り	ジオパーク学習センター	展示中
2	No.2	0.80 ～ 1.60	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	ジオパーク学習センター	展示中
3	No.3	1.60 ～ 2.40	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
4	No.4	2.40 ～ 3.20	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
5	No.5	3.20 ～ 4.00	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
6	No.6	4.00 ～ 4.80	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
7	No.7	4.80 ～ 5.60	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
8	No.8	5.60 ～ 6.40	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
9	No.9	6.40 ～ 7.20	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	ジオパーク学習センター	展示中
10	No.10	7.20 ～ 8.00	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
11	No.11	8.00 ～ 8.80	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
12	No.12	8.80 ～ 9.60	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
13	No.13	9.60 ～ 10.40	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
14	No.14	10.40 ～ 11.20	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
15	No.15	11.20 ～ 12.00	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
16	No.16	12.00 ～ 12.80	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	ジオパーク学習センター	展示中
17	No.17	12.80 ～ 13.60	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
18	No.18	13.60 ～ 14.40	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
19	No.19	14.40 ～ 15.20	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
20	No.20	15.20 ～ 16.00	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
21	No.21	16.00 ～ 16.80	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
22	No.22	16.80 ～ 17.60	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
23	No.23	17.60 ～ 17.77	0.17	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	チューブ内エア混入のため採取率低下
24	No.24	17.77 ～ 18.30	0.53	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	チューブ内エア混入のため採取率低下
25	No.25	18.30 ～ 19.10	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
26	No.26	19.10 ～ 19.90	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
27	No.27	19.90 ～ 20.60	0.70	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	砂が噛んだため採取率低下
28	No.28	20.60 ～ 21.40	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
29	No.29	21.40 ～ 21.90	0.50	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	砂が噛んだため採取率低下
30	No.30	21.90 ～ 22.70	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
31	AS27	19.90 ～ 20.60	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	27と同一コア由来
32	AS28	20.60 ～ 21.40	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	28と同一コア由来
33	AS29	21.40 ～ 21.90	0.50	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	29と同一コア由来
34	AS30	21.90 ～ 22.70	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	30と同一コア由来
35	AS31	22.70 ～ 23.45	0.75	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
36	AS32	23.45 ～ 24.25	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
37	AS33	24.25 ～ 25.05	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
38	BS34	25.60 ～ 26.35	0.75	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
39	BS35	31.70 ～ 32.45	0.75	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	26.35～31.70mまで砂礫状に採取
40	BS36	32.45 ～ 33.20	0.75	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
41	BS37	33.20 ～ 34.00	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
42	BS38	34.00 ～ 34.70	0.70	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
43	BS39	34.70 ～ 35.45	0.75	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
44	BN40	35.45 ～ 35.85	0.40	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
45	BS41	35.85 ～ 36.65	0.80	〃	板状・剥ぎ取り	歴史資料収蔵庫	
46	C-1	0.00 ～ 0.90	0.90	平成25年	半円柱状・コア	ジオパーク学習センター	ケースに保管
47	C-2	6.30 ～ 7.20	0.90	〃	半円柱状・コア	ジオパーク学習センター	ケースに保管
48	C-3	15.90 ～ 16.80	0.90	〃	半円柱状・コア	ジオパーク学習センター	ケースに保管
49	L-1,2	0.00 ～ 0.50	0.25×2	〃	半円柱状・コア	ジオパーク学習センター	ケースに保管

※採取長は、ボーリング調査で採取された際の数値

鈴木空如筆法隆寺金堂壁画模写及び下絵（追加指定）

1	種別	有形文化財（歴史資料）
2	名称及び員数	（追加前）鈴木空如筆法隆寺金堂壁画模写及び下絵　77点 （追加後）鈴木空如筆法隆寺金堂壁画模写及び下絵　133点
3	材質・形状	別紙のとおり
4	寸法	別紙のとおり
5	所在地	大仙市太田町太田字新田田尻３番４号　太田文化プラザ
6	所有者	大仙市
7	説明	

鈴木空如、本名久治は明治６年(1873)に仙北郡長信田村（現大仙市太田町）に生まれた。明治31年(1898)に東京美術学校日本画科選科に入学、明治37年(1904)に研究科を修了した。在学中に、古美術研究の権威であった山名貫義と、仏教美術研究の第一人者であった大村西崖の薫陶を受けた。展覧会等への出品を一切せず、仏画の研究と模写に生涯をかけた。

空如が模写した法隆寺金堂の壁画は、昭和24年(1949)に焼損したものの、今から約1300年前の飛鳥時代を代表する我が国最古の寺院壁画である。空如はその壁画を３回模写しているが、３回目模写は昭和11年(1936)空如が63歳の時に完成し、平成９年(1997)に生家から太田町(現大仙市)に寄贈され、平成24年に県指定となった。追加指定する１回目模写は、大正11年(1922)に完成し、箱根湯本温泉の吉池旅館社長を務めた鈴木家が所有していたが、あわせて所有されていた下絵とともに平成30年(2018)に大仙市に寄贈された。なお、２回目模写は、平木浮世絵財団が所有し東京国立博物館に寄託されている。

１回目模写は、全体的に強い輪郭線で描かれており、剥落部分を黄色で着色し、中にはその輪郭をさらに朱線で囲った部分もあるなどの特徴がある。模写当時の壁画の色彩を強調した表現は壁画の保存状態を把握し、金堂壁画の研究のために描いたものと考えられている。また、下絵は制作過程に関わる貴重な資料である。

今回追加する資料は、空如の法隆寺金堂壁画模写の全体像を把握するために、重要である。

参考

秋田県指定有形文化財（歴史資料）「鈴木空如筆法隆寺金堂壁画模写及び下絵」　平成24年(2012)３月23日

参考文献

大岸佐吉　『信仰の仏画師　鈴木空如』　春秋社　平成５年(1993)７月

佐々木直子　「鈴木空如　人と芸術」『法隆寺壁画模写に一生を捧げた画家　鈴木空如展～悠久の時をこえて～』秋田県立近代美術館　４～16頁　平成14年(2002)３月

大仙市教育委員会　『鈴木空如資料調査研究事業報告書Ⅰ』　平成22年(2010)３月３１日

大仙市教育委員会　『鈴木空如資料調査研究事業報告書Ⅱ』　平成23年(2011)３月３１日

２号壁画「菩薩半跏像」

７号壁画「聖観音菩薩像」

１０号壁画「薬師浄土図」

下絵９０「左脇侍菩薩（上半身）」

下絵１０７「阿弥陀如来（転法輪印）」

五明文庫（吉川五明稿本類並びに関係資料）目録

五明文庫（吉川五明稿本類並びに関係資料）目録

【典籍（五明編著）】120点（稿本86(85)、写本30(31)、板本4）　※Ⅰ＝昭和54年10月9日市指定　Ⅱ=昭和60年3月1日市指定

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm)〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
1	句藻 上	1 冊	稿本	五明	五明	安永9(1780)	紙本墨書	半紙本・綴葉装(四ツ穴)	21.8×16.5	164	自選句文集。	自筆俳書1	Ⅰ
2	句藻 下	1 冊	稿本	五明	五明	寛政8(1796)	紙本墨書	半紙本・綴葉装(四ツ穴)	21.8×16.5	158	自選句文集。巻頭に「小夜庵之記」(天明二壬寅年仲夏書)。	自筆俳書1	Ⅰ
3	獨吟千々ノ花野	1 冊	稿本	五明	五明	宝暦5(1755)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	21.5×17.0	116		自筆俳書2	Ⅰ
4	たもとくそ 左	1 冊	稿本	五明	五明	宝暦11(1761)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.4×16.4	71	内題「俳諧袂糞」。	自筆俳書3	Ⅰ
5	たもとくそ 右	1 冊	稿本	五明	五明	宝暦11(1761)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.4×16.4	77		自筆俳書3	Ⅰ
6	[松島象潟紀行]	1 冊	稿本	五明	五明	明和2(1765)	紙本墨書	升形本・三ツ目綴	19.5×17.5	23	仮題(題簽の文字判読不可)。	自筆俳書4	Ⅰ
7	四季の友 春	1 冊	稿本	五明	五明	明和5(1768)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	23.4×17.4	24		自筆俳書5	Ⅰ
8	しきの友 夏	1 冊	稿本	五明	五明	明和5(1768)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	23.4×17.4	22	内題「四季之友 夏」。	自筆俳書5	Ⅰ
9	四季の友 冬	1 冊	稿本	五明	五明	明和5(1768)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	23.4×17.4	25		自筆俳書5	Ⅰ
10	草まくら	1 冊	稿本	五明	五明	安永3(1774)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.0×16.0	6	序に「郊原に遊ぶの吟」。	自筆俳書6	Ⅰ
11	このはかこ 全	1 冊	稿本	五明	五明	安永3(1774)か	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	23.0×16.2	25	「このはかご」。	自筆俳書7	Ⅰ
12	秋のあした 全	1 冊	稿本	五明	五明	安永3(1774)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	23.0×16.2	21		自筆俳書8	Ⅰ
13	旅かます 浅見内記行	1 冊	稿本	五明	五明	安永3(1774)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.8×16.0	10		自筆俳書9	Ⅰ
14	つかのはな 全	1 冊	稿本	五明	五明	安永3(1774)	紙本墨書	半紙本・綴目不詳	23.0×16.0	12	芭蕉塚建立記念集。	自筆俳書10	Ⅰ
15	しらを集 全	1 冊	稿本	五明	五明	安永4(1775)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	23.0×16.2	9		自筆俳書11	Ⅰ
16	田うちさる 全	1 冊	稿本	五明	五明	安永4(1775)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	23.0×16.2	14	「田うち猿」。	自筆俳書12	Ⅰ
17	[柴の雫]	1 冊	稿本	五明	五明	安永4(1775)か	紙本墨書	半紙本・綴目不詳	23.0×15.8	14	仮題(題簽・内題なし)。	自筆俳書13	Ⅰ
18	ゆふ月夜	1 冊	稿本	五明	五明	安永5(1776)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	23.4×16.0	18		自筆俳書14	Ⅰ
19	員外	1 冊	稿本	五明	五明	安永5(1776)か	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.8×15.8	16	春の部。『ゆふ月夜』(安永5年)の「員外」の意味か。	自筆俳書15	Ⅰ
20	蔦の烟	1 冊	稿本	五明	五明	安永6(1777)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.7×15.8	17		自筆俳書16	Ⅰ
21	山の形	1 冊	稿本	五明	五明	安永7(1778)か	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	23.0×16.5	27		自筆俳書17	Ⅰ
22	翁嵯峨日記／霜の菊 追善独詠／古あふき 退隠独詠	1 冊	稿本	芭蕉、五明	五明	安永7(1778)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.5×16.0	17	三作品合綴。	自筆俳書18・19	Ⅰ
23	華芒	1 冊	稿本	五明	五明	安永7(1778)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.5×16.0	11		自筆俳書20	Ⅰ
24	雨の中	1 冊	稿本	五明	五明	安永7(1778)か	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.6×15.7	37		自筆俳書21	Ⅰ
25	梅の眉 全	1 冊	稿本	五明	五明	安永8(1779)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.5×16.0	58		自筆俳書22	Ⅰ
26	[墨の梅]	1 冊	稿本	五明	五明	安永9(1780)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.5×16.0	55	仮題(題簽なし)。歌仙13巻、紀行文「郊原逍遙」・「八里の秋」、発句。	自筆俳書23	Ⅰ
27	八里の秋 全	1 冊	稿本	五明	五明	安永9(1780)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.6×16.0	7	昼寝の里紀行。	自筆俳書24	Ⅰ
28	遊はかま	1 冊	稿本	五明	五明	天明2(1782)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.8×15.8	37		自筆俳書25	Ⅰ
29	栗ひむき	1 冊	稿本	五明、巴釣	五明	天明2(1782)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.5×15.8	19	『栗びむぎ』。巴釣(益戸滄州秀典)作「擬檀林百韻」・「倭詩十七編」(序五明)を含む。	自筆俳書26	Ⅰ
30	白木山越	1 冊	稿本	五明	五明	天明3(1783)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	17.0×12.0	31		自筆俳書27	Ⅰ
31	野からす	1 冊	稿本	五明	五明	天明3(1783)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	17.0×12.0	24		自筆俳書28	Ⅰ
32	雪の軒	1 冊	稿本	五明	五明	天明4(1784)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	17.0×12.0	54	袋入り。	自筆俳書29	Ⅰ
33	正木の初日	1 冊	稿本	五明	五明	天明5(1785)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	17.0×12.0	46	題簽に「天明五巳春」。	自筆俳書30	Ⅰ

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm) 〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
34	梅の浦道	1 冊	稿本	五明	五明	天明5(1785)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	17.0×12.0	59	能代紀行。題簽に「天明五巳春巻」。	自筆俳書31	I
35	みのかうえ	1 冊	稿本	五明	五明	天明5(1785)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	16.5×12.0	46	「巳の更衣」の意。題簽に「天明五巳夏之巻」。	自筆俳書32	I
36	やまこほう 天	1 冊	稿本	五明	五明	天明5(1785)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	17.0×12.2	24	「やまごぼう」。題簽に「天明己秋」。	自筆俳書33	I
37	やまこほう 地	1 冊	稿本	五明	五明	天明5(1785)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	17.0×12.2	24	「やまごぼう」。	自筆俳書33	I
38	かれあし	1 冊	稿本	五明	五明	天明5(1785)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	17.0×12.1	49	題簽に「天明五己冬之巻」。	自筆俳書34	I
39	つら杖	1 冊	稿本	五明	五明	天明8(1788)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	17.0×12.0	19		自筆俳書35	I
40	あきの雲 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政2(1790)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	17.0×12.0	46		自筆俳書36	I
41	しもの朝 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政2(1790)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	17.0×12.0	33		自筆俳書37	I
42	七草かり 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政5(1793)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	17.0×12.0	14		自筆俳書38	I
43	みもとの梅 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政5(1793)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.5×15.5	15		自筆俳書39	I
44	山家の火鉢 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政5(1793)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.4×15.5	16		自筆俳書40	I
45	さつきかさ	1 冊	稿本	五明	五明	寛政6(1794)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.2×15.6	11		自筆俳書41	I
46	むら尾花 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政6(1794)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.3×15.6	26		自筆俳書42	I
47	[冬の籠]	1 冊	稿本	五明	五明	寛政6(1794)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.5×15.5	19	仮題(内題なし)。	自筆俳書43	I
48	佐野のわたり 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政7(1795)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	17.0×12.0	20		自筆俳書44	I
49	狭のゝわたり	1 冊	稿本	五明	五明	(未詳)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.3×15.6	17	吉川家所蔵の48の別本。内題「佐野のわたり」。	自筆俳書44	I
50	秋の花 上	1 冊	稿本	五明	五明	寛政7(1795)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	17.0×12.0	30		自筆俳書45	I
51	秋の花 中	1 冊	稿本	五明	五明	寛政7(1795)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	17.0×12.0	28		自筆俳書45	I
52	秋の花 下	1 冊	稿本	五明	五明	寛政7(1795)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	17.0×12.0	9		自筆俳書45	I
53	秋の華 天	1 冊	稿本または写本	五明	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.2×15.8	27	吉川家所蔵の51・52の別本。小本の中下巻に相当。欠本の地の巻が、小本の上巻に相当か。	自筆俳書45	I
54	梅の塵 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政7(1795)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.7×16.0	20		自筆俳書46	I
55	辰のたつとし	1 冊	稿本	五明	五明	寛政8(1796)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	17.0×12.0	20		自筆俳書47	I
56	春のそてかき	1 冊	稿本	五明	五明	寛政8(1796)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.5×15.7	15	「春のそでがき」。	自筆俳書48	I
57	鶴のあと	1 冊	稿本	五明	五明	寛政8(1796)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.2×15.7	14		自筆俳書49	I
58	さない唄 能津 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政9(1797)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.5	12	「早苗うた」のこと。	自筆俳書50	I
59	しらたま 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政9(1797)	紙本墨書	半紙本・綴目不詳	22.0×15.5	27		自筆俳書51	I
60	八千梅 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政10(1798)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.7	13		自筆俳書52	I
61	松の月 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政12(1800)	紙本墨書	半紙本・綴目不詳	22.0×15.5	8		自筆俳書53	I
62	春のあや 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政12(1800)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.7	11		自筆俳書54	I
63	奥のふし 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政12(1800)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	21.7×15.3	12		自筆俳書55	I
64	三都次韻 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政8・9(1797・1798)頃か	紙本墨書	小本・四ツ目綴	17.0×12.0	34		自筆俳書56	I
65	秋の鳥 全	1 冊	稿本	五明	五明	寛政末(1801)か	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴か	22.0×15.8	18		自筆俳書57	I
66	きさらぎ六歌仙 全	1 冊	稿本	五明	五明	享和元(1801)か	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.4×15.5	15	題簽に「酉」(享和元年は辛酉)。	自筆俳書58	I
67	やよい六歌仙	1 冊	稿本	五明	五明	享和元(1801)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.7	18		自筆俳書59	I
68	竹の枕 全	1 冊	稿本	五明	五明	享和元(1801)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.7	25	題簽に「卯月 酉」。	自筆俳書60	I
69	さあらしの竹 全	1 冊	稿本	五明	五明	享和元(1801)か	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.5	14	題簽に「六月 酉」。	自筆俳書61	I

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm)〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
70	人ひとたひ 全	1 冊	稿本	五明	五明	享和元(1801)か	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.5	17	「人ひとたび」。題簽に「酉」。	自筆俳書62	I
71	巣鳥 全	1 冊	稿本	五明	五明	享和元(1801)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.5	14	題簽に「酉」。	自筆俳書63	I
72	秋の声 全	1 冊	稿本	五明	五明	享和元(1801)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.7	15	題簽に「酉」。	自筆俳書64	I
73	蒜の月 全	1 冊	稿本	五明	五明	享和元(1801)か	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.8	11	「むくげの月」。題簽に「酉」。	自筆俳書65	I
74	うらおもて 全	1 冊	稿本	五明	五明	享和元(1801)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.5	13	題簽に「酉」。	自筆俳書66	I
75	東都去来庵追悼一筵	1 冊	稿本	五明	五明	享和2(1802)	紙本墨書	半紙本・仮綴(二ツ穴)	25.0×17.5	41		自筆俳書67	I
76	かつらの垣	1 冊	稿本	五明	五明	天明3(1783)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	17.3×11.6	18+折込1	「かづらの垣」。和歌集。	自筆俳書68	I
77	小夜庵集名目扣	1 冊	稿本	五明	五明	享和2(1802)	紙本墨書	半紙二ツ折・大福帳式・二ツ目綴	34.5×12.3	11	表紙に「享和戌とし八月改」。	自筆俳書69	I
78	古今句帳	1 冊	稿本	五明	五明	明和3(1766)	紙本墨書	折帖	27.0×16.5	26折	122「旅客句帳」とともに紙製の帙に収まる。	自筆俳書70	I
79	[五明住所録]	1 冊	稿本	五明	五明	寛政7(1795)か	紙本墨書	大福帳式(三ツ穴)	7.8×19.0	13		自筆俳書71	I
80	[句控帳一]芭門在世俳人句抜書	1 冊	稿本	五明	五明	安永3(1774)	紙本墨書	半紙本・仮綴(二ツ穴)	24.0×17.2	28		板本、写本等10	I
81	[句控帳十一]午初夏	1 冊	稿本	五明	五明ほか	寛政10(1798)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	24.0×17.0	95		板本、写本等	I
82	[句控帳十二]寛政十午年	1 冊	稿本	五明	五明	寛政11(1799)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	24.0×16.8	136		板本、写本等	I
83	[句控帳十三]未年句禄	1 冊	稿本	五明	五明	寛政12(1800)	紙本墨書	半紙本・綴目不詳	24.2×17.0	98	内題「寛政十一己未無水月」。	板本、写本等	I
84	[句控帳十四]寛申如月	1 冊	稿本	五明	五明ほか	寛政13(1801)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	24.0×17.0	99	内題「寛政十二庚申年如月」。	板本、写本等	I
85	[句控帳十五]享和元年	1 冊	稿本	五明	五明	享和2(1802)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	24.0×16.8	97	表紙欠損。	板本、写本等10	I
86	[句控帳十六]享和弐秋	1 冊	稿本	五明	五明ほか	享和3(1803)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	24.0×16.8	41	題簽「戊 享和弐秋 小夜莽」。	板本、写本等	I
87	秋もなか	1 冊	写本	五明	蘆尺か	寛政末(1801)か	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.5	19		板本、写本等7	I
88	小夜話	1 冊	写本	五明	野松	寛政4(1792)	紙本墨書	半紙本・康熙綴	25.3×17.2	41	俳論書。安永8・9(1779・1780)頃の五明著。「かな詩」(26丁)と「小夜話」(15丁)を合綴。	板本、写本等8	I
89	[句控帳二]寛政二庚戌年卯月	1 冊	写本	五明	(未詳)	寛政2(1790)	紙本墨書	半紙本・仮綴(二ツ穴)	25.0×17.2	57		板本、写本等10	I
90	[句控帳三]寛政三辛亥年	1 冊	写本	五明	(未詳)	寛政3(1791)	紙本墨書	半紙本・仮綴(二ツ穴)	25.0×17.3	117		板本、写本等10	I
91	[句控帳六]寛政四壬子年	1 冊	写本	五明	(未詳)	寛政4(1792)	紙本墨書	半紙本・仮綴(二ツ穴)	25.0×17.2	84		板本、写本等10	I
92	[句控帳七]寛政五癸巳年	1 冊	写本	五明	(未詳)	寛政5(1793)	紙本墨書	半紙本・仮綴(二ツ穴)	25.0×17.3	108	寛政五年は癸丑。	板本、写本等10	I
93	[句控帳八]寛政六甲寅年	1 冊	写本	五明	(未詳)	寛政6(1794)	紙本墨書	半紙本・仮綴(二ツ穴)	24.5×17.0	184		板本、写本等10	I
94	[句控帳九]寛政七乙卯年	1 冊	写本	五明	(未詳)	寛政7(1795)	紙本墨書	半紙本・仮綴(二ツ穴)	25.0×17.5	26		板本、写本等10	I
95	[句控帳十]百千鳥 上	1 冊	写本	五明	(未詳)	寛政10(1798)	紙本墨書	半紙本・綴葉装(四ツ穴)	21.8×16.6	126		板本、写本等10	I

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm) 〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
96	[句控帳十]百千鳥 中	1 冊	写本	五明	(未詳)	寛政10(1798)	紙本墨書	半紙本・綴葉装(四ツ穴)	21.8×16.5	140		板本、写本等10	I
97	[句控帳十]百千鳥 下	1 冊	写本	五明	(未詳)	寛政10(1798)	紙本墨書	半紙本・綴葉装(四ツ穴)	21.5×16.5	148		板本、写本等10	I
98	巻子本 小夜庵之記ほか	1 巻	写本	五明 応斎 秋山宇吉	秋山御風書 渡辺洞岡画	(未詳)	紙本墨書	巻子本	657×28.2、書状は縦16.5		「五明肖像」(口絵)、「小夜庵之記」、「小夜庵鳥瞰之図」、「秋山宇吉書状『十月廿二』(那波三郎右衛門宛)」からなる。秋山御風(寛政7(1795)～慶応2(1866))は、本名宇吉で、応斎、俳聖堂、楳斎、逍遥亭と号す。	他2	I
99	句藻 天一	1 冊	写本	五明	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	大本・四ツ目綴	25.4×19.2	33	秋田市教委昭和57年9月調査では恒蔵写。	追加52	II
100	句藻 天二	1 冊	写本	五明	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	大本・四ツ目綴	25.4×19.2	33	秋田市教委昭和57年9月調査では恒蔵写。	追加52	II
101	句藻 天三	1 冊	写本	五明	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	大本・四ツ目綴	25.4×19.2	33	秋田市教委昭和57年9月調査では恒蔵写。	追加52	II
102	句藻 天四	1 冊	写本	五明	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	大本・四ツ目綴	25.4×19.2	33	秋田市教委昭和57年9月調査では恒蔵写。	追加52	II
103	句藻 天五	1 冊	写本	五明	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	大本・四ツ目綴	25.4×19.2	32	秋田市教委昭和57年9月調査では恒蔵写。	追加52	II
104	句藻 地一	1 冊	写本	五明	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	大本・四ツ目綴	25.4×19.4	37	秋田市教委昭和57年9月調査では恒蔵写。	追加52	II
105	句藻 地二	1 冊	写本	五明	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	大本・四ツ目綴	25.4×19.4	34	秋田市教委昭和57年9月調査では恒蔵写。	追加52	II
106	句藻 地三	1 冊	写本	五明	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	大本・四ツ目綴	25.4×19.4	34	秋田市教委昭和57年9月調査では恒蔵写。	追加52	II
107	句藻 地四	1 冊	写本	五明	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	大本・四ツ目綴	25.4×19.4	39	秋田市教委昭和57年9月調査では恒蔵写。	追加52	II
108	句藻 天一	1 冊	写本	五明	恒蔵	(未詳)	紙本墨書	大本・康熙綴	25.0×17.3	36		追加53	II
109	句藻 天二	1 冊	写本	五明	恒蔵	(未詳)	紙本墨書	大本・康熙綴	25.0×17.3	46		追加53	II
110	句藻 天三	1 冊	写本	五明	恒蔵	(未詳)	紙本墨書	大本・康熙綴	25.0×17.2	21		追加53	II
111	句藻 天四	1 冊	写本	五明	恒蔵	(未詳)	紙本墨書	大本・康熙綴	25.0×17.0	34		追加53	II
112	句藻 天五	1 冊	写本	五明	恒蔵	(未詳)	紙本墨書	大本・康熙綴	25.0×17.3	33		追加53	II
113	句藻 地一	1 冊	写本	五明	恒蔵	(未詳)	紙本墨書	大本・康熙綴	24.8×17.0	38		追加53	II
114	句藻 地二	1 冊	写本	五明	恒蔵	(未詳)	紙本墨書	大本・康熙綴	24.7×16.8	36		追加53	II
115	句藻 地三	1 冊	写本	五明	恒蔵	(未詳)	紙本墨書	大本・康熙綴	24.8×17.2	36		追加53	II
116	句藻 地四	1 冊	写本	五明	恒蔵	(未詳)	紙本墨書	大本・康熙綴	24.8×17.3	39		追加53	II
117	はつあき 全	1 冊	板本	五明	(板元未詳)	安永4(1775)か	紙本摺写	半紙本・五ツ目綴	23.0×16.0	17		板本、写本等2	I
118	みよの月 全	1 冊	板本	五明	(板元未詳)	寛政8(1796)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.7×16.0	17		板本、写本等4	I
119	桜紙	1 冊	板本	五明	(板元未詳)	寛政10(1798)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	21.5×15.8	8	題簽は桜皮を薄く剥いで中央に張り付けるだけで、文字はない。序に「桜紙」とある。	板本、写本等5	I
120	華の雲	1 冊	板本	五明	馬了板	寛政12(1800)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.0×15.6	8	馬了は五明門の秋田藩士。	板本、写本等6	I

【典籍(門人等編著)】14点(稿本4、写本4、板本6)

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm)〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
121	野烏 全	1 冊	稿本	以中撰	以中	安永6(1777)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	23.8×16.6	42		板本、写本等3	I
122	旅客句帳	1 冊	稿本	来訪客ら	来訪客ら	安永3(1774)	紙本墨書	折帖	27.0×16.5	31折	小夜庵の来訪客が書き記したもの。78「古今句帳」とともに紙製の帙に収まる。	板本、写本等9	I
123	道之記	1 冊	稿本	金馬	金馬	寛政3(1791)	紙本墨書	中本・綴葉装(二ツ穴)	19.0×13.5	10	国谷金馬は、横手住の秋田藩士、はじめ常世田長翠(酒田)門、後に五明門の俳人。	追加55	II
124	[更衣]	1 冊	稿本	金馬	金馬	享和元(1801)	紙本墨書	小本・仮綴(四ツ穴)	17.0×12.0	12	仮題(題簽・内題なし。巻頭句の上五から。)。	追加56	II
125	さるすべり	1 冊	稿本	沙鷗	沙鷗	安永初頃(1772-)	紙本墨書	巻子本	28.5×1884.0		俳論。益戸滄州(1726-1777)は、本名秀典、秋田藩士、俳人、漢学者。俳号に、巴釣、沙鷗、瓶隠子、春芽堂など。杉箱入、五明箱書「正風俳諧／猿ミ　一軸」(表)、「羽城官士益戸氏典滄州瓶隠士／巴釣子書正風俳諧亀鑑一巻也／小夜庵五明」(裏)。	追加58	II
126	小夜砧	1 冊	写本	工藤野松	月想	嘉永7(1854)	紙本墨書	大本・仮綴本(四ツ穴)	27.5×20.0	44	跋、是胆斎野松撰(享和3年(1803))	追加86	II
127	ひるねの月	1 冊	写本	素大	五明	寛政2(1790)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	17.0×11.9	42	村井素大は、八郎潟昼寝の五明門人。	追加54	II
128	蔓の道	1 冊	写本	樗木著	五明	寛政4(1792)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	16.9×12.0	6	紀行文(山形・福島・越後)。樗木は、八郎潟昼寝の五明門人。	追加57	II
129	かけひなた	1 冊	板本	遺族・門人撰か	(板元未詳)	文化2(1805)か	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.5×15.7	23	「かげひなた」。遺句抄。	板本、写本等1	I
130	青昉	1 冊	板本	春芽堂瓶隠子	(板元未詳)	安永3(1774)	紙本摺写	横本・仮綴(四ツ穴)	15.8×21.7	3	「青昉」は春の始の意。春芽堂瓶隠子は益戸秀典滄州(巴釣)。袋入り。	追加11	II
131	月いつこ	1 冊	板本	素大・樗木・野了	菊谷太兵衛板(版下五明筆)	寛政6(1794)か	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.5×15.8	12	序、五明。芭蕉百回忌記念。	追加12	II
132	須いもの草	1 冊	板本	渭虹・吾長	菊谷太兵衛板	寛政5(1793)か	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.7×16.0	13	袋入り。	追加13	II
133	花の月夜	1 冊	板本	羽能津連(能代港連)	(板元未詳)	寛政6(1794)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.4×15.8	17	芭蕉百回忌記念。序、植木右稲。	追加14	II
134	みをつくし	1 冊	板本	礎一	(板元未詳)	(未詳)	紙本摺写	半紙本・五ツ目綴	22.8×15.8	9	歳義齋写隠画、彫工扁芝。袋入り。	追加50	II

【典籍(蕉門、中興俳諧、その他)】85点(写本42、板本43)

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm)〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
135	蕉門傳書	1 冊	写本	晋子／去来	五明	天明元(1781)	紙本墨書	特大本・仮綴(二ツ穴)	32.2×22.2	22	内題「芭蕉翁俳諧二十五ヶ條掟」。宝井其角(1661-1707)は、蕉門十哲の一人、江戸座を開く。別号に晋子、宝晋斎、狂雷堂、螺舎など。	追加59	Ⅱ
136	くみ縄 新々式／二第準縄／翁遺語	1 冊	写本	芭蕉(許六写)／其角／嵐雪／芭蕉	五明	(未詳)	紙本墨書	特大本・仮綴(二ツ穴)	32.0×22.2	36	「新々式」は、宝永6年(1709)五老井許六写。「二第準縄」宝晋斎其角著。「附句十五條證句」服部嵐雪著。「芭蕉翁遺語」芭蕉著。	追加60	Ⅱ
137	おくのほそ道	1 冊	写本	芭蕉	五明	明和8(1771)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	23.0×17.0	44	「おくのほそ道」は元禄15年(1702)板行。	追加61	Ⅱ
138	落柿舎日記	1 冊	写本	重厚	五明	寛政3(1791)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	16.7×12.0	29	安永3(1774)自序。井筒屋庄兵衛・橘屋治平板行本を五明書写。井上重厚(1738－1804)は、京都の俳人、五升庵蝶夢の門人。	追加62	Ⅱ
139	ひとつ橘	1 冊	写本	鈴木清風	五明	安永2(1773)	紙本墨書	中本・五ツ目綴	18.0×12.2	21	附「一橘集再興追加歌儕」。貞享3年(1686)井筒屋庄兵衛重勝板行本を五明書写。鈴木清風(1651－1721)は、出羽尾花沢の紅花問屋、はじめ談林派、のち蕉門に学ぶ俳人。	追加63	Ⅱ
140	ひとつはし 全	1 冊	写本	鈴木清風	五明	安永2(1773)	紙本墨書	半紙本・綴目不詳	23.0×16.0	18	貞享3年(1686)井筒屋庄兵衛重勝板行本を五明書写。	追加64	Ⅱ
141	宗祇傳	1 冊	写本	未詳	五明	(未詳)	紙本墨書	横本・仮綴(四ツ穴)	13.8×19.2	8		追加65	Ⅱ
142	誰か家 全	1 冊	写本	其角	五明	(未詳)	紙本墨書	半紙本・綴目不詳	23.0×16.0	13	嵐雪・其角らの連句集。昭和57年9月秋田市教委調査で「五明写」。	追加66	Ⅱ
143	書抜あつみ山／全 連然四吟／句兄弟	1 冊	写本	芭蕉・曽良・不玉／(連)正珍・光純(俳)乙由・支考／其角	五明	安永3(1774)	紙本墨書	半紙本・綴目不詳	23.0×16.0	39	河合曽良(1649-1710)は、信濃国出身の俳人、蕉門十哲の一人、「おくのほそ道」に同行。不玉(？-1697)は、酒田の医師、伊東玄順、俳人。中川乙由(1675-1739)は、伊勢国の豪商、俳人。各務支考(1665-1731)は、蕉門十哲の一人、美濃派を開く。	追加67	Ⅱ
144	俳諧骨稽伝	1 冊	写本	許六	五明	安永年間(1772-1781)	紙本墨書	半紙本・綴目不詳	23.0×17.0	26	森川許六(1656-1751)は、彦根藩士、蕉門十哲の一人。	追加68	Ⅱ
145	虚栗集 晋其角選書抜	1 冊	写本	其角	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	23.0×16.0	28	題簽「虚栗集　晋其角選書抜」。昭和57年9月秋田市教委調査では「五明写」。	追加69	Ⅱ
146	ありそ海 浪化集 上	1 冊	写本	浪化	五明	安永2(1773)	紙本墨書	半紙本・綴目不詳	23.0×16.0	29	内題「有磯海」。元禄8年(1695)板本を五明書写。浪化(1672－1703)は、浄土真宗の僧、蕉門の俳人。	追加70	Ⅱ

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm) 〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
147	紙魚塵 全	1 冊	写本	(未詳)	五明	安永5(1776)	紙本墨書	半紙本・綴目不詳	23.0×16.0	10	其角・不卜・挙白(木下長嘯子)らの発句連句集。岡村不卜(1632－1691)は、江戸の俳諧師、芭蕉と交わる。木下勝俊(1569-1649)は、若狭小浜城主、歌人、長嘯、長嘯子、挙白、天哉翁などと号した。	追加71	Ⅱ
148	熱田三歌仙 全	1 冊	写本	士朗・都貢	(未詳)	安永3(1774)	紙本墨書	半紙本・綴目不詳	23.0×16.0	14	井筒屋庄兵衛・辻井吉右衛門板行本の写本。尾張の枇杷園士朗、鴎巣都貢は加藤暁台の門人。題簽なし。	追加72	Ⅱ
149	八ゆふくれ	1 冊	写本	乃露	五明	安永2(1773)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	23.3×16.5	28	正徳五年(1715)橘屋治兵衛板行本の写本。内題「八夕暮集」。乃露(だいろ)は美濃派の俳人。	追加73	Ⅱ
150	五元集 一	1 冊	写本	其角著／旨原編	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×14.5	32	延享4年(1747)竹川藤兵衛ら板行本の写本。昭和57年9月秋田市教委調査では「五明写」。小栗旨原(1725－1778)は江戸の俳人。	追加74	Ⅱ
151	五元集 二	1 冊	写本	其角著／旨原編	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×14.5	31	延享4年(1747)竹川藤兵衛ら板行本の写本。昭和57年9月秋田市教委調査では「五明写」。	追加74	Ⅱ
152	五元集 三	1 冊	写本	其角著／旨原編	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×14.5	31	延享4年(1747)竹川藤兵衛ら板行本の写本。昭和57年9月秋田市教委調査では「五明写」。	追加74	Ⅱ
153	五元集 四	1 冊	写本	其角著／旨原編	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×14.5	27	延享4年(1747)竹川藤兵衛ら板行本の写本。昭和57年9月秋田市教委調査では「五明写」。	追加74	Ⅱ
154	五元集 五	1 冊	写本	其角著／旨原編	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×14.5	26	延享4年(1747)竹川藤兵衛ら板行本の写本。昭和57年9月秋田市教委調査では「五明写」。	追加74	Ⅱ
155	五元集 六	1 冊	写本	其角著／旨原編	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×14.5	39	延享4年(1747)竹川藤兵衛ら板行本の写本。昭和57年9月秋田市教委調査では「五明写」。	追加74	Ⅱ
156	五元集 七	1 冊	写本	其角著／旨原編	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.0×14.5	38	延享4年(1747)竹川藤兵衛ら板行本の写本。昭和57年9月秋田市教委調査では「五明写」。	追加74	Ⅱ
157	鬼貫句選 上	1 冊	写本	鬼貫	五明	安永5(1776)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	23.0×16.0	46	上島鬼貫(1661-1738)は上方の俳人。序、明和5年(1768)太祇。跋、明和6年(1769)蕪村。	追加75	Ⅱ
158	芭蕉庵小文庫	1 冊	写本	史邦	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	大本・四ツ目綴	25.0×19.8	37	元禄9年(1696)板行本の写本。昭和57年9月秋田市教委調査で「五明写」。中村史邦は、江戸時代前期の蕉門の俳人、もと尾張犬山藩の侍医。題簽なし。	追加76	Ⅱ

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm) 〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
159	あつ田三かせむ	1 冊	写本	暁台	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	22.2×16.0	11	内題「熱田三歌仙」。芭蕉、其角、曽良、嵐雪らの句集。加藤暁台(1732-92)は、尾張の中興俳諧の俳人。昭和57年9月秋田市教委調査で「五明写」。	追加77	Ⅱ
160	くみ縄 新々式／二第準縄／翁遺語	1 冊	写本	芭蕉(許六写)／其角／嵐雪／芭蕉	五明写の転写	(未詳)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	16.8×11.8	36	「新々式」は、宝永6年(1709)五老井許六写。「二第準縄」宝晋斎其角著。「附句十五條證句」服部嵐雪著。「芭蕉翁遺語」芭蕉著。	追加78	Ⅱ
161	初懐紙	1 冊	写本	其角	五明写の転写	(未詳)	紙本墨書	半紙本・仮綴(二つ穴)	24.6×17.0	20	貞享3年(1686)の『初懐紙』の写本の転写か。外題なし。	追加79	Ⅱ
162	続虚栗 上下	1 冊	写本	其角	五明	安永6(1777)	紙本墨書	半紙本・五ツ目綴	23.0×16.0	43	貞享4年(1687)西村市郎兵衛蔵板本を五明写。	追加80	Ⅱ
163	熱田三歌仙	1 冊	写本	暁台	五明写の転写	寛政3(1791)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	16.9×12.0	13	安永6年(1777)五明写本を五明自身が転写したもの。安永4年(1775)加藤暁台自序本がもと。この写本に暁台自序はない。	追加81	Ⅱ
164	いつをむかし 全	1 冊	写本	其角	五明	寛政7(1795)	紙本墨書	小本・四ツ目綴	17.0×11.9	23	元禄3年(1690)板行本を五明六十五歳のときに写。袋入り。	追加82	Ⅱ
165	野さらし記行	1 冊	写本	芭蕉	五明	天明5(1785)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	17.0×12.0	17	野さらし紀行(貞享2・3年(1685・1686)頃)の写本。袋入り。	追加83	Ⅱ
166	芭蕉文集	1 冊	写本	小林風徳	(未詳)	(未詳)	紙本墨書	半紙本・仮綴(二つ穴)	24.0×17.5	58	小林風徳は江戸の俳人、祇徳(1702-54)の門人。跋、祇徳。	追加84	Ⅱ
167	こほれ穂 上	1 冊	写本	五明	五明	安永7(1778)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	18.0×12.0	29	蕉門俳書の抜書。自序、五明。帙入り。	追加85	Ⅱ
168	こほれ穂 初懐紙 中	1 冊	写本	五明	五明	安永7(1778)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	18.0×12.0	20	蕉門俳書の抜書。帙入り。	追加85	Ⅱ
169	こほれ穂 下	1 冊	写本	五明	五明	安永7(1778)	紙本墨書	小本・五ツ目綴	18.0×12.0	59	蕉門俳書の抜書。帙入り。	追加85	Ⅱ
170	和歌麓の塵 中	1 冊	板本	有賀長伯	(板元未詳)	(未詳)	紙本摺写	小本・四ツ目綴	17.5×12.2	96	歌学書。内題「和歌麓の塵巻之下」。有賀長伯(1662－1737)は京の国学者、歌学者。	追加他5	Ⅱ
171	詩符稿 全	1 冊	写本	(未詳)	森田投桃	寛延3(1750)	紙本墨書	半紙本・四ツ目綴	22.7×16.5	20	内題「陶淵明集之対句」。	追加他6	Ⅱ
172	千字文[一]	1 冊	写本	周興嗣	那波幹斎	享保6(1721)	紙本墨書	折帖	28.0×12.2	50折	周興嗣(470－521)は、南朝梁の官僚、文章家。「天地玄黄～詩讃羔羊」。箱入。	追加他7	Ⅱ
173	千字文[二]	1 冊	写本	周興嗣	那波幹斎	享保6(1721)	紙本墨書	折帖	28.0×12.2	50折	「景行維賢～逐物意移」。箱入。	追加他7	Ⅱ
174	千字文[三]	1 冊	写本	周興嗣	那波幹斎	享保6(1721)	紙本墨書	折帖	28.0×12.2	50折	「堅持雅操～用軍最精」。箱入。	追加他7	Ⅱ
175	千字文[四]	1 冊	写本	周興嗣	那波幹斎	享保6(1721)	紙本墨書	折帖	28.0×12.2	52折	「宣威沙漠～適口充腸」。箱入。	追加他7	Ⅱ
176	千字文[五]	1 冊	写本	周興嗣	那波幹斎	享保6(1721)	紙本墨書	折帖	28.0×12.2	49折	「飽飫烹宰～焉哉乎也」。箱入。	追加他7	Ⅱ
177	はるの日	1 冊	板本	荷兮	西村市郎右衛門板	貞享3(1686)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.6×15.9	16	山本荷兮(1648-1716)は、尾張藩士、蕉門の俳人。	追加15	Ⅱ

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm)〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
178	冬の日 全	1 冊	板本	荷兮	井筒屋庄兵衛板	貞享元(1684)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.5×16.0	17	題簽に「尾張五哥仙」。一丁表に「了閑小夜」と墨書。	追加16	Ⅱ
179	芭蕉翁発句集 上	1 冊	板本	蝶夢	井筒屋庄兵衛板	安永3(1774)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.8×16.1	37	蝶夢(1732－1796)は、時宗の僧、蕉風復興を志した俳人、京出身。	追加17	Ⅱ
180	芭蕉翁発句集 下	1 冊	板本	蝶夢	井筒屋庄兵衛板	安永3(1774)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.9×16.0	48		追加17	Ⅱ
181	あらの 員外	1 冊	板本	荷兮	筒井庄兵衛板	元禄2(1689)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.5×16.0	29	内題「曠野集 員外」。	追加18	Ⅱ
182	俳諧深川	1 冊	板本	洒堂	井筒屋庄兵衛板	元禄6(1693)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.6×15.9	19	濱田洒堂(？-1737)は、近江国膳所藩の医師、蕉門の俳人。表紙裏に「夜々庵春潮」と墨書。	追加19	Ⅱ
183	ひさこ 膳所	1 冊	板本	珍碩	井筒屋庄兵衛板	元禄3(1690)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.8×16.1	16	「ひさご 膳所」。珍碩は濱田洒堂の別号。表紙裏に「夜々庵春潮」と墨書。	追加20	Ⅱ
184	はせを翁十六篇	1 冊	板本	西田宇鹿	西村市郎右衛門・西村源六板	元禄7(1694)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.7×15.9	24	西田宇鹿(1669-1732)は、京で向井去来に師事。	追加21	Ⅱ
185	芭蕉句選 上	1 冊	板本	華雀	井筒屋庄兵衛板	元文4(1739)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	23.0×16.3	31		追加22	Ⅱ
186	芭蕉句選 下	1 冊	板本	華雀	井筒屋庄兵衛板	元文4(1739)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	23.0×16.3	31		追加22	Ⅱ
187	あつみ山	1 冊	板本	(未詳)	戸倉屋喜平衛板	元文5(1740)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	23.0×15.6	8	裏表紙見返しに「芭蕉別座敷追而板行」の貼り紙。	追加23	Ⅱ
188	俳諧梅日記 天	1 冊	板本	沾耳か	(板元未詳)	(未詳)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	23.0×15.4	41	内題「梅之首途」。	追加24	Ⅱ
189	猿簑 巻之一	1 冊	板本	去来・凡兆	井筒屋庄兵衛板	元禄4(1691)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.9×16.2	35	向井去来(1651-1704)は、肥前生まれの俳諧師、蕉門十哲の一人。野沢凡兆(？-1714)は、金沢出身の京の医者、芭蕉に師事した俳人。	追加25	Ⅱ
190	さるみの 巻之五	1 冊	板本	去来・凡兆	井筒屋庄兵衛板	元禄4(1691)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.8×16.0	23	内題「猿簑 巻之五」。	追加25	Ⅱ
191	はせを翁嵯峨日記 全	1 冊	板本	芭蕉	永田文昌堂・新井文盛舘板	宝暦3(1753)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.8×15.8	26		追加26	Ⅱ
192	去来発句集	1 冊	板本	蝶夢	井筒屋荘兵衛板	安永3(1774)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.7×16.2	26		追加27	Ⅱ

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm) 〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
193	丈草発句集	1 冊	板本	蝶夢	井筒屋荘兵衛・橘屋次兵衛板	安永3(1774)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.7×16.1	21	内藤丈草(1662-1704)は、尾張犬山藩士、蕉門十哲の一人。	追加28	Ⅱ
194	徳々の句合	1 冊	板本	素堂	御堂前浅草東門子蔵板	享保20(1735)の後刷か	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.5×16.0	28	山口素堂(1642-1716)は、江戸の俳人、芭蕉と交友する。	追加29	Ⅱ
195	俳諧花の故事	1 冊	板本	闌更	橘屋治平衛板	宝暦13(1763)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.7×16.0	43	「はなのふるごと」。高桑闌更(1726-1798)は、金沢の商家に生まれた、中興俳諧の俳人、半化坊と号す。	追加30	Ⅱ
196	桃の実	1 冊	板本	兀峰	西村源六ら板	安永4(1775)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.8×16.1	26	内題「桃實集」。桜井兀峰(こっぽう、1662－1722)は、備前岡山藩士、蕉門の俳人。原本は元禄6年(1693)板。	追加31	Ⅱ
197	老桂窩茂堂独吟百韻	1 冊	板本	老桂窩茂堂	(板元未詳)	宝暦8(1758)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	23.0×16.5	11		追加32	Ⅱ
198	漢和燭遊吟	1 冊	板本	(未詳)	井筒屋庄兵衛板	未詳(未詳)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.2×15.8	23		追加33	Ⅱ
199	俳諧家譜 上	1 冊	板本	丈石	(板元未詳)	寛延4(1751)の後刷本	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.6×16.0	68	貞門系俳諧点者の系譜をまとめたもの。早川丈石(1695－1779)は、京都の俳人。	追加34	Ⅱ
200	百物語 全	1 冊	板本	(未詳)	橘屋治平衛板	寛政10(1798)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	23.0×16.0	24	中興俳諧句集(五明、蕪村、樗良、几董、蓼太、仏仙、長翠ら)。	追加35	Ⅱ
201	すみなをし	1 冊	板本	百川	井筒屋庄兵衛・同宇兵衛重寛板	延享2(1745)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	23.0×16.5	12	彭城百川(さかきひゃくせん、1697-1752)は、名古屋生、南画家、俳人。蕉門の各務支考に就く。別号、八仙堂・八僊など。	追加36	Ⅱ
202	墨直よふことり	1 冊	板本	八僊	井筒屋庄兵衛・同宇兵衛重寛板	延享3(1746)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	23.3×16.4	13	八僊は、彭城百川の号。	追加37	Ⅱ
203	なゝくるま	1 冊	板本	建部涼袋	一啓舎路川	寛政12(1800)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	23.0×16.4	14	内題「七車集」。建部綾足(1719－1774)は、俳人・読本作者・絵師・国学者。俳号に葛鼠・都因・洛橘・涼袋(袋は岱・帒とも)、庵号吸露庵。	追加38	Ⅱ
204	たまも集	1 冊	板本	蕪村	安藤八左衛門板	安永3(1774)	紙本摺写	小本・四ツ目綴	16.0×11.3	43	内題「俳諧玉藻集」。与謝蕪村(1716-1784)は、摂津国出身、京の中興俳諧の俳人、南画(文人画)家。	追加39	Ⅱ

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm) 〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
205	わくかせわ 上	1 冊	板本	千梅	井筒屋庄兵衛・柏原四良兵衛・加賀屋宇兵衛板	宝暦3(1753)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.4×15.8	68	内題「篭纏輪 巻之一・巻之二」。季語集(正月から六月まで)。田中千梅(1686－1769)は、近江の鋳物師、蕉風の俳人。	追加40	Ⅱ
206	わくかせわ 中	1 冊	板本	千梅	井筒屋庄兵衛・柏原四良兵衛・加賀屋宇兵衛板	宝暦3(1753)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.4×15.8	71	内題「篭纏輪 巻之三・巻之四」。季語集(七月から十二月まで)。	追加40	Ⅱ
207	篭纏輪 下	1 冊	板本	千梅	井筒屋庄兵衛・柏原四良兵衛・加賀屋宇兵衛板	宝暦3(1753)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.4×15.8	71	「わくかせわ げ」。内題「篭纏輪 巻之五・巻之六」。季語集(巻之五は、いろは順。巻之六は、神・仏・恋などの部立て。)。	追加40	Ⅱ
208	あやにしき 中	1 冊	板本	沾涼	文刻堂西村源六板	延享3(1746)の後刷本か	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.4×16.2	39	内題「綾錦巻之中」。菊岡沾涼(1680-1747)は内藤露沾門下の俳人。	追加41	Ⅱ
209	綾錦 下	1 冊	板本	沾涼	文刻堂西村源六板	延享3(1746)の後刷本か	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.4×16.2	42	内題「綾錦巻之下」。	追加41	Ⅱ
210	俳諧をたまき綱目大成	1 冊	板本	溝口竹亭	(板元未詳)	(未詳)	紙本摺写	半紙半截本・仮綴(四ツ穴)	15.4×10.4	94	俳諧作法書。溝口竹亭(1658－1692)は、京の俳人。	追加42	Ⅱ
211	落髪賀	1 冊	板本	遅日坊	橘屋治平衛板	寛政6(1794)	紙本摺写	中本・仮綴(四ツ穴)	17.2×21.2	4		追加43	Ⅱ
212	巽のすゝみ	1 冊	板本	文石	(板元未詳)	享和元(1801)	紙本摺写	中本・仮綴(四ツ穴)	18.9×13.1	9	文石は、弘前の俳人。袋入り。	追加44	Ⅱ
213	吟社懐舊録	1 冊	板本	中野語竹	廣井秀袈板	享和元(1801)	紙本摺写	折本	17.3×9.6	17折	蕉門俳人の命日を整理したもの。袋入り。	追加45	Ⅱ
214	時雨帖	1 冊	板本	竹屋治平	(板元未詳)	寛政5(1793)	紙本摺写	竪長本・仮綴(四ツ穴)	23.0×13.6	10	竹屋治平は、津軽の俳人。	追加46	Ⅱ
215	おほろ豆腐	1 冊	板本	(未詳)	廣井秀袈板	享和元(1801)	紙本摺写	折本	17.3×9.6	8折	中野語竹編か。	追加47	Ⅱ

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm) 〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
216	蝦夷のにしき	1 冊	板本	一葉坊仙路	須原屋伊八・丁金屋伝兵衛・野田屋左兵衛・橘屋治兵衛板	安永4(1775)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	23.0×15.7	13		追加48	Ⅱ
217	梅蔵人	1 冊	板本	天老	(板元未詳)	寛政12(1800)	紙本摺写	大本・四ツ目綴	26.4×18.0	12	小見山天老(?－1809)は、名古屋の医師、香具商、俳人。加藤暁台に学ぶ。	追加49	Ⅱ
218	玄峰集 かみ	1 冊	板本	嵐雪	竹川藤兵衛板	寛延3(1750)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.2×15.7	32	服部嵐雪(1654－1707)は、江戸の俳人、蕉門十哲の一人。百萬旨原校訂。小栗旨原(1725－1778)は江戸の俳人。	追加51	Ⅱ
219	けんほう集 しも	1 冊	板本	嵐雪	竹川藤兵衛板	寛延3(1750)	紙本摺写	半紙本・四ツ目綴	22.2×15.7	30	内題「玄峰集」。百萬旨原校訂。	追加51	Ⅱ

【掛軸】13点

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm)〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
220	五明肖像(自選八句張込み)	1 幅	掛軸	五明	(未詳)	(未詳)	紙本墨書		本紙75.0×30.7		句題「真影しのべ」。落款なし。吉川家で五明命日に掛ける慣わしであった。	掛軸1	I
221	五明肖像(嵐児画　五明書短冊「菊の名は」)	1 幅	掛軸	五明	五明書 嵐児画	(未詳)	紙本墨書 紙本著色		本紙98.0×33.5		画落款「嵐児如泉斎 印印」。短冊貼り付け。	掛軸2	I
222	五明自画賛(日向あり)	1 幅	掛軸	五明	五明	(未詳)	紙本墨書		本紙107.5×53.5		落款「鶴頭叟五明並画 印印」。	掛軸3	I
223	五明自画賛(鹿鳴て)	1 幅	掛軸	五明	五明	(未詳)	紙本墨書		本紙91.0×24.0		三幅対　落款「紙洞仙　印印」。	掛軸5	I
224	五明自画賛(月さすや)	1 幅	掛軸	五明	五明	(未詳)	紙本墨書		本紙91.0×24.0		三幅対　落款「鶴頭人　印印」。	掛軸6	I
225	五明自画賛(ことし子の)	1 幅	掛軸	五明	五明	(未詳)	紙本墨書		本紙91.0×23.0		三幅対　落款「小夜庵五明　印	掛軸7	I
226	五明書(田一枚)　芭蕉像	1 幅	掛軸	芭蕉	五明書 房載画	(未詳)	紙本墨書		本紙90.0×29.0		「田一枚」は芭蕉句。落款「小夜庵五明謹書 印印」。	掛軸8	I
227	五明書(薦を着て)	1 幅	掛軸	芭蕉	五明	(未詳)	紙本墨書		本紙94.0×28.3		落款「鶴頭五明書 印印」。	掛軸9	I
228	五明書　富士図(雲霧の)	1 幅	掛軸	芭蕉	五明	(未詳)	紙本墨書		本紙57.0×79.0		落款「小夜庵五明謹写 印印」。	掛軸10	I
229	扇面張合せ(鵜遣ひの・夏の雨)	1 幅	掛軸	五明	五明	(未詳)	紙本墨書		本紙58.5×51.5		落款一「鶴頭叟五明　印印」。 落款二「鶴頭叟書　印印」。	掛軸11	I
230	五明書　春朝句(鹿のふむ)	1 幅	掛軸	春朝	五明	(未詳)	紙本墨書		本紙66.0×29.0		春朝は五明の嗣子。落款「鶴頭叟書 印」。	掛軸12	I
231	五明書　亘大句(よき人の)	1 幅	掛軸	亘大	五明書 百之丞画	(未詳)	紙本墨書 紙本著色		本紙65.5×29.0		亘大は五明の孫。落款「鶴頭叟書印」、「百之丞 印」。	掛軸13	I
232	五明書簡　吾長宛	1 幅	掛軸	五明	五明	(未詳)	紙本墨書		本紙15.0×56.0		落款「五明」。	掛軸14	I

【附】44点

番号	資料名	員数	種類	編著者	筆写者	成立年	材質	形状	寸法(cm)〈縦×横〉	丁数	備考	明徳館図書館資料番号	市指定※
233	文台　裏書五明書(春もやや)	1 脚	文台	芭蕉句	五明	天明7(1787)	木製	文台	31.5×53.2		「芭蕉翁／春もややけしき／とゝのふ月と梅／天明丁未中夏／鶴頭野人五明書 印印」。	他1	I
234	柴垣に夕顔紋蒔絵印匣	1 基	印匣			(未詳)	木製漆塗	蒔絵付	巾12×奥行21×高15.3		片開き三段引出し(上1寸、中2.5寸、下1寸)。中段下に印矩内蔵。	他3	I
235	綴織袋	1 枚	綴織袋			(未詳)	布製		20.0×33.0			他3	I
236 － 276	印形　四十一顆	41 顆	印形			(未詳)	石製		2.3×2.3×1.5ほか		234の印匣の上段・下段の引き出しに内蔵。五明印39顆、春潮印1顆、亘大印1顆。春潮は五明嗣子、亘大は五明孫。	他3	I

鈴木空如筆法隆寺金堂壁画模写及び下絵

一覧表

鈴木空如筆法隆寺金堂壁画模写及び下絵　一覧表

	名称	前回指定（点数）	追加指定（点数）	計（点数）
（1）	法隆寺金堂壁画模写	18	12	30
（2）	法隆寺金堂壁画下絵	59	44	103
	計	77	56	133

材質・形状・寸法

（1）法隆寺金堂壁画3回目模写（前回指定）18点

番号	旧番号	資料名	壁名称（サイズ）	高さ(cm)	幅(cm)	継紙(紙)	料紙	表装・裏打	大仙市管理番号
1	1	釈迦浄土図	1号壁（大壁）	301.2	251.0	15	楮紙	袋表装	001
2	2	菩薩像	2号壁（小壁）	300.0	149.0	10	楮紙	袋表装	002
3	3	観音菩薩像	3号壁（小壁）	301.5	149.3	11	楮紙	袋表装	003
4	4	勢至菩薩像	4号壁（小壁）	301.7	149.2	10	楮紙	袋表装	004
5	5	菩薩像	5号壁（小壁）	301.8	149.6	10	楮紙	袋表装	005
6	6	阿弥陀浄土図	6号壁（大壁）	301.1	251.4	17	楮紙	袋表装	006
7	7	観音菩薩像	7号壁（小壁）	301.7	149.5	11	楮紙	袋表装	007
8	8	文殊菩薩像	8号壁（小壁）	301.0	149.1	10	楮紙	袋表装	008
9	9	弥勒浄土図	9号壁（大壁）	301.2	251.0	15	楮紙	袋表装	009
10	10	薬師浄土図	10号壁（大壁）	301.2	251.0	24	楮紙	袋表装	010
11	11	普賢菩薩像	11号壁（小壁）	301.9	149.0	10	楮紙	袋表装	011
12	12	十一面観音像	12号壁（小壁）	301.1	149.1	10	楮紙	袋表装	012
13	13	山中羅漢図	7号壁の上	70.1	156.2	3	雁皮紙	パネル	山中羅漢図_パネル_1
14	14	山中羅漢図	3号壁の上	70.1	156.2	5	雁皮紙	パネル	山中羅漢図_パネル_2
15	15	山中羅漢図	7号壁の上	69.0	157.0	3	雁皮紙	裏打ち	山中羅漢図1
16	16	山中羅漢図	3号壁の上	69.0	157.0	3	雁皮紙	裏打ち	山中羅漢図2
17	17	山中羅漢図	1号壁の上	69.0	255.0	6	雁皮紙	裏打ち	山中羅漢図3
18	18	飛天図	17号小壁	70.2	134.3	3	雁皮紙	パネル	飛天図_パネル

（1）法隆寺金堂壁画1回目模写（追加指定）12点

番号	旧番号	資料名	壁名称（サイズ）	高さ(cm)	幅(cm)	継紙(紙)	料紙	表装・裏打	大仙市管理番号
19		釈迦浄土図	1号壁（大壁）	316.5	253.5	24	楮紙	裏打ち	—
20		菩薩像	2号壁（小壁）	317.5	153.5	14	楮紙	裏打ち	—
21		観音菩薩像	3号壁（小壁）	311.5	153.5	14	楮紙	裏打ち	—
22		勢至菩薩像	4号壁（小壁）	313.5	154.5	14	楮紙	裏打ち	—
23		菩薩像	5号壁（小壁）	317.0	153.0	14	楮紙	裏打ち	—
24		阿弥陀浄土図	6号壁（大壁）	316.0	256.0	24	楮紙	裏打ち	—
25		観音菩薩像	7号壁（小壁）	316.0	153.0	15	楮紙	裏打ち	—
26		文殊菩薩像	8号壁（小壁）	314.5	153.5	13	楮紙	裏打ち	—
27		弥勒浄土図	9号壁（大壁）	317.0	252.5	21	楮紙	裏打ち	—
28		薬師浄土図	10号壁（大壁）	314.0	255.0	21	楮紙	裏打ち	—
29		普賢菩薩像	11号壁（小壁）	310.5	153.0	14	楮紙	裏打ち	—
30		十一面観音像	12号壁（小壁）	317.0	153.0	14	楮紙	裏打ち	—

（2）法隆寺金堂壁画　下絵（前回指定）59点

番号	旧番号	資料名	壁番号	縦(cm)	横(cm)	料紙	表装	大仙市資料番号
31	19	①左脇侍菩薩　②観音菩薩 ③菩薩　④阿弥陀如来　各頭部	①1号壁 ②3号壁 ③5号壁 ④6号壁	120.0	56.3	雁皮紙	裏打ち	下絵1
32	20	左脇侍菩薩（上半身）	9号壁	118.7	55.6	雁皮紙	裂表装	下絵2
33	21	①羅漢　②観音菩薩　③右脇侍菩薩　④右脇侍菩薩、神将、金剛力士　各頭部	①1号壁 ②6号壁 ③9号壁 ④10号壁	120.0	56.2	雁皮紙	裏打ち	下絵3
34	22	宣字形獅子座部分	10号壁	56.3	80.5	雁皮紙	裏打ち	下絵4
35	23	供物台	1号壁	56.4	80.6	雁皮紙	裏打ち	下絵5
36	24	宣字形須弥座部分	1号壁	56.3	80.6	雁皮紙	裏打ち	下絵6
37	25	天蓋部分	1号壁	56.3	80.5	雁皮紙	裏打ち	下絵7
38	26	天蓋部分	1号壁	56.2	80.8	雁皮紙	裏打ち	下絵8
39	27	天蓋部分	1号壁	56.2	80.5	雁皮紙	裏打ち	下絵9
40	28	蓮華座（根本）部分	6号壁	56.2	80.5	雁皮紙	裏打ち	下絵10
41	29	①開敷蓮華部分 ②未敷蓮華部分	①2号壁 ②5号壁	56.3	80.4	雁皮紙	裏打ち	下絵11
42	30	宝相華部分	11号壁	56.7	80.5	雁皮紙	裏打ち	下絵12
43	31	開敷蓮華部分、踏割蓮華部分	2号壁	56.3	80.4	雁皮紙	裏打ち	下絵13
44	32	左脇侍菩薩蓮台部分、化生菩薩蓮台部分、宝樹の葉部分	6号壁	56.3	80.5	雁皮紙	裏打ち	下絵14
45	33	阿弥陀如来背障部分	6号壁	56.4	80.4	雁皮紙	裏打ち	下絵15
46	34	左脇侍菩薩宝冠及び瓔珞ほか	6号壁	56.3	80.6	雁皮紙	裏打ち	下絵16
47	35	①右脇侍菩薩石帯、左脇侍菩薩持物、化生菩薩宝冠・瓔珞・臂釧　②神将（左上）宝冠、右脇侍菩薩腕釧ほか	①6号壁 ②10号壁	56.3	80.6	雁皮紙	裏打ち	下絵17
48	36	①金剛力士（左下）宝冠及び瓔珞部分 ②宝冠化仏（水瓶）	①10号壁 ②4号壁	56.3	80.5	雁皮紙	裏打ち	下絵18
49	37	薬師如来右手及び右足、左脇侍菩薩（日光）右手、右脇侍菩薩（月光）両手、右脇侍菩薩両手（八菩薩の内）	10号壁	80.5	54.1	雁皮紙	裏打ち	下絵19
50	38	天蓋部分	10号壁	56.2	80.5	雁皮紙	裏打ち	下絵20
51	39	供物台	9号壁	56.3	80.3	雁皮紙	裏打ち	下絵21
52	40	天蓋部分	2号壁	56.3	80.4	雁皮紙	裏打ち	下絵22
53	41	薬師如来（頭部）、羅漢（頭部）、飛天（頭部）	10号壁	80.5	54.2	雁皮紙	裏打ち	下絵23
54	42	右脇侍菩薩（月光、頭部）、右脇侍菩薩（頭部、八菩薩の内）、神将（右脇侍2尊）	10号壁	80.8	54.3	雁皮紙	裏打ち	下絵24
55	43	右脇侍菩薩（月光、上半身）、羅漢（右脇侍、上半身）	10号壁	80.6	53.8	雁皮紙	裏打ち	下絵25
56	44	左脇侍菩薩（日光、頭部）、左脇侍菩薩（頭部、八菩薩の内）、神将（左脇侍2尊）	10号壁	80.7	54.0	雁皮紙	裏打ち	下絵26
57	45	金剛力士（頭部、左右2尊）	10号壁	80.7	54.0	雁皮紙	裏打ち	下絵27
58	46	化生菩薩（2尊、左脇侍菩薩頭上、阿弥陀如来右肩上）、左脇侍菩薩裳（観音菩薩）	6号壁	133.5	60.8	雁皮紙	裏打ち	下絵28
59	47	①羅漢（頭部、3尊） ②身障（頭部、2尊）、金剛力士（頭部、右尊）	①1号壁 ②10号壁	133.2	60.8	雁皮紙	裏打ち	下絵29
60	48	①文殊菩薩（上半身）、②普賢菩薩（上半身）	①8号壁 ②11号壁	131.5	60.0	雁皮紙	裂表装	下絵30

番号	旧番号	資料名	壁番号	縦(cm)	横(cm)	料紙	表装	大仙市資料番号
61	49	①菩薩(上半身)、②菩薩(上半身)	①2号壁 ②5号壁	132.4	59.8	雁皮紙	裂表装	下絵31
62	50	神将及び金剛力士宝冠、供物台	10号壁	132.2	60.1	雁皮紙	仮表装	下絵32
63	51	①阿弥陀如来(上半身、螺髪抜) ②観音菩薩(上半身)	①6号壁 ②3号壁	133.0	60.7	雁皮紙	裏打ち	下絵33
64	52	左右脇侍菩薩、羅漢、金剛力士	10号壁	132.7	60.1	雁皮紙	裂表装	下絵34
65	53	弥勒如来(上半身)、左右脇侍菩薩(上半身)	9号壁	132.6	60.9	雁皮紙	裏打ち	下絵35
66	54	釈迦如来(上半身)、左右(薬王・薬上)脇侍菩薩(上半身)	1号壁	133.4	60.8	雁皮紙	裏打ち	下絵36
67	55	天蓋部分、獅子(向かって右1匹)ほか	10号壁	132.4	60.1	雁皮紙	仮表装	下絵37
68	56	薬師如来、左右脇侍菩薩	10号壁	132.5	60.0	雁皮紙	裂表装	下絵38
69	57	①聖観音簿冊(上半身) ②十一面観音菩薩(上半身)	①7号壁 ②12号壁	132.0	59.8	雁皮紙	裂表装	下絵39
70	58	羅漢(頭部、2尊)、神将(頭部、6尊)	9号壁	133.5	60.9	雁皮紙	裏打ち	下絵40
71	59	①金剛力士(頭部、2尊) ②神将(頭部、4尊)	①9号壁 ②10号壁	133.7	61.0	雁皮紙	裏打ち	下絵41
72	60	比丘(頭部、6尊)	1号壁	133.7	60.8	雁皮紙	裏打ち	下絵42
73	61	①供物台部分　②天蓋部分　③天蓋部分　④飛天部分	①1号壁②2号壁③6号壁④10号壁	132.1	60.1	雁皮紙	仮表装	下絵43
74	62	阿弥陀如来背障	6号壁	132.5	60.2	雁皮紙	裂表装	下絵44
75	63	①天蓋部分　②供物台	①6号壁 ②9号壁	133.2	60.7	雁皮紙	裏打ち	下絵45
76	64	①開敷蓮華部分　②蓮華座(根本)部分　③獅子(吽形1匹)　④宝相華部分	①2号壁②6号壁③9号壁④11号壁	133.2	60.9	雁皮紙	裏打ち	下絵46
77	65	①開敷蓮華茎部分、腕釧　②霊芝雲と蓮台にのる火炎宝珠、観音菩薩裳	①2号壁 ②3号壁	133.5	60.9	雁皮紙	裏打ち	下絵47
78	66	円爾座、開敷蓮華根本部分	2号壁	133.6	60.7	雁皮紙	裏打ち	下絵48
79	67	飛天(左)、左脇侍菩薩部分(右手に玻璃(ガラス)盤)、右脇侍菩薩部分(右手に未敷蓮華、左手に玻璃製の壺、裳)、宣字形須弥座部分	1号壁	133.3	60.9	雁皮紙	裏打ち	下絵49
80	68	①神将(左)胸甲、右脇侍菩薩裳、宣字形獅子座部分 ②左脇侍菩薩開敷蓮華	①10号壁 ②1号壁	132.1	60.1	雁皮紙	仮表装	下絵50
81	69	①飛天(右)、左脇侍菩薩瓔珞部分、螺髪の神将宝冠(右)②飛天(右)	①9号壁 ②10号壁	133.4	60.9	雁皮紙	裏打ち	下絵51
82	70	蓮華座及び八角の台座部分、獅子(阿形1匹)、龍王の頸に負う龍像部分	9号壁	133.2	60.8	雁皮紙	裏打ち	下絵52
83	71	阿弥陀如来背障、化生菩薩(上半身、天蓋右)、左脇侍菩薩宝冠(観音菩薩)	6号壁	133.2	60.8	雁皮紙	裏打ち	下絵53
84	72	①飛天部分　②天蓋部分、獅子(左)　③天蓋部分	①1号壁②10号壁③11号壁	133.7	60.7	雁皮紙	裏打ち	下絵54
85	73	化生菩薩(蓮華座根本右)、右脇侍菩薩裳(勢至菩薩)、同菩薩未敷蓮華、化生菩薩(下辺左端)、化生菩薩裳(下辺中央右)	6号壁	133.3	61.0	雁皮紙	裏打ち	下絵55
86	74	①宣字形須弥座部分、供物台部分 ②天蓋部分ほか	①1号壁 ②2号壁	131.6	59.4	雁皮紙	裂表装	下絵56
87	75	阿弥陀如来像	6号壁	178.0	59.0	雁皮紙	裂表装	下絵57
88	76	観音菩薩像	6号壁	177.0	49.5	雁皮紙	裂表装	下絵58
89	77	勢至菩薩像	6号壁	177.0	49.0	雁皮紙	裂表装	下絵59

（2）法隆寺金堂壁画　下絵（追加指定）44点

番号	旧番号	資料名	壁番号	縦(cm)	横(cm)	料紙	表装	大仙市資料番号
90		左脇侍菩薩（上半身）	9号壁	118.5	71.3	雁皮紙	—	11-2-3-41
91		左脇侍菩薩（観音、上半身）	6号壁	107.5	79.0	雁皮紙	—	11-2-3-107
92		右脇侍菩薩（勢至、頭部）	6号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	11-2-5-1
93		禅定比丘図（山中羅漢図）	外陣	265.0	76.5	雁皮紙	—	11-6-1-0
94		左脇侍菩薩（観音菩薩、上半身）	6号壁	94.5	75.2	雁皮紙	—	11-6-2-0
95		飛天図（右）	9号壁	109.0	55.3	雁皮紙	—	21-1-1-0
96		観音菩薩像（右足力）	3号壁	37.5	26.0	雁皮紙	—	21-2-1-0
97		普賢菩薩（頭部）	11号壁	38.0	26.5	雁皮紙	—	21-2-2-0
98		普賢菩薩（左手）	11号壁	38.0	26.5	雁皮紙	—	21-2-3-0
99		化生菩薩（阿弥陀如来右肩上）	6号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-4-0
100		勢至菩薩（左足部分）	4号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-5-0
101		勢至菩薩（右手部分）	4号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-6-0
102		左脇侍菩薩（両手）	1号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-7-0
103		右脇侍菩薩（勢至菩薩、左手）	6号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-8-0
104		勢至菩薩（左手）	4号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-9-0
105		菩薩（左手）	2号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-10-0
106		観音菩薩（左手）	3号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-11-0
107		阿弥陀如来（転法輪印）	6号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-12-0
108		左脇侍菩薩（観音菩薩、右手）	6号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-13-0
109		左脇侍菩薩（観音菩薩、右手）	6号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-14-0
110		文殊菩薩（左手）	8号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-15-0
111		普賢菩薩（右足）	11号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-16-0
112		勢至菩薩（右足）	4号壁	27.0	38.0	雁皮紙	—	21-2-17-0
113		右脇侍菩薩（勢至菩薩、両足）	6号壁	27.0	38.0	雁皮紙	—	21-2-18-0
114		菩薩（右手）	2号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-19-0
115		右脇侍菩薩（頭部）	9号壁	38.5	27.0	雁皮紙	—	21-2-22-0
116		比丘（頭部、十大弟子の内）	10号壁	27.0	38.0	雁皮紙	—	21-2-23-0
117		阿弥陀如来（両足）	6号壁	27.0	38.0	雁皮紙	—	21-2-24-0
118		化生菩薩（右上隅）	6号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-25-0
119		弥勒如来（両手、右足）	9号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-26-0
120		文殊菩薩（両足）	8号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-27-0
121		右脇侍菩薩（両手、右足）	1号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-28-0
122		右脇侍菩薩（勢至菩薩、右手）	6号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-29-0
123		観音菩薩像（左足）	3号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-30
124		菩薩（両足）	2号壁	38.5	27.0	雁皮紙	—	21-2-31
125		薬師如来（左足）	10号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-32
126		観音菩薩（頭部）	3号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-33
127		文殊菩薩（頭部）	8号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-34

番号	旧番号	資料名	壁番号	縦(cm)	横(cm)	料紙	表装	大仙市資料番号
128		化生菩薩(左脇侍菩薩頭上)	6号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-35
129		菩薩(頭部)	5号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-36
130		化生菩薩(阿弥陀如来左肩上)	6号壁	38.5	27.0	雁皮紙	—	21-2-37
131		文殊菩薩(右手)	8号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-38
132		観音菩薩(右手)	3号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-39
133		釈迦如来(両手、右足)	1号壁	38.0	27.0	雁皮紙	—	21-2-40

令和３年

第４回 教 育 委 員 会 会 議

報告事項

秋田県教育委員会

報告事項

令和４年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験の日程及び会場等について

高校教育課

１　期日

（１）　第一次選考試験　　第１日　令和３年７月１７日（土）
　　第２日　７月１８日（日）
　　予備日　７月１９日（月）

（２）　第二次選考試験　　第１日　令和３年９月１１日（土）
　　第２日　９月１２日（日）
　　第３日　９月１３日（月）
　　予備日　９月１４日（火）

※　第二次選考試験は、第一次選考試験合格者、令和４年度第一次選考試験免除者、他県教諭等優遇者に対して実施する。

２　会場

（１）　第一次選考試験
・秋田西高校・総合教育センター・自治研修所（小・中学校、養護教諭）
・秋田明徳館高校（高等学校、特別支援学校、栄養教諭）

（２）　第二次選考試験
・秋田西高校・総合教育センター・自治研修所（小・中学校、養護教諭）
・秋田明徳館高校（高等学校、特別支援学校、栄養教諭）

３　変更点

（１）　昨年、実施を見送った論文試験は、新たな試験会場を確保して実施する。

（２）　日本赤十字秋田看護大学を、新たに大学推薦特別選考（養護教諭）の指定大学に加える。

（３）　特別支援学校教諭普通免許状の所有者（取得見込者も含む）に対し、加点優遇措置を行う。

４　その他

（１）　実施要項は５月１０日（月）に発表し、翌１１日から配付する。募集対象や募集人員、試験日程等の詳細は、この実施要項に記載する。

（２）　問い合わせ先

小･中学校及び養護教諭	義務教育課	018-860-5145
高等学校	高校教育課	018-860-5164
特別支援学校及び栄養教諭	特別支援教育課	018-860-5133